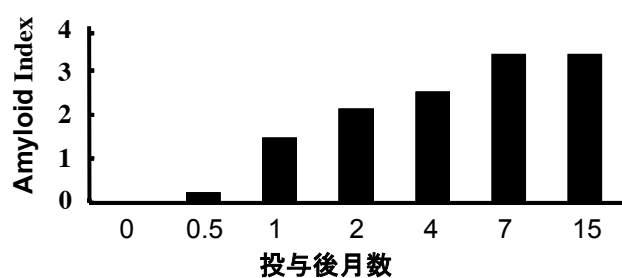
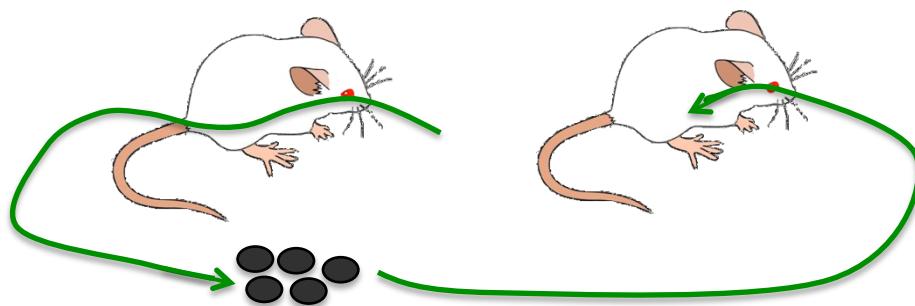


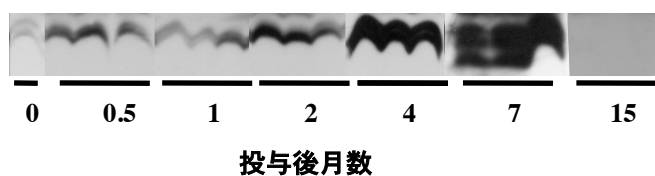
伝播性の強いAApoAIIアミロイド線維が 発症中期の糞中に出現する

研究分担者：信州大学医学系研究科加齢適応医科学系 樋口京一

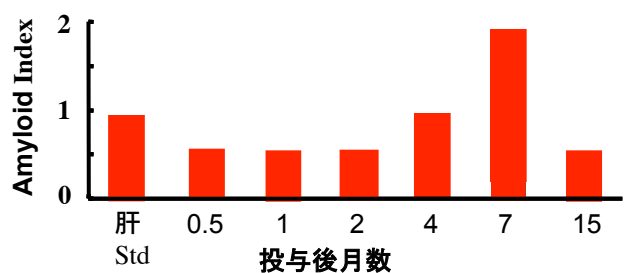
図. 糞を介したAApoAIIアミロイドーシスの伝播機構



アミロイド誘発後のアミロイド沈着



アミロイド誘発後の各月齢における糞中
アミロイド線維のWestern blot解析



アミロイド誘発後の各月齢における糞中
アミロイド線維の伝播性の比較

解 説

1. マウスAApoAIIアミロイドーシスではアミロイド線維投与による誘発(伝播)後、アミロイド沈着は7ヶ月後まで増加し、その後はほぼ横ばいになる。
2. 糞中に排出されるアミロイド線維は投与後7ヶ月で最も多くなり、その後は減少し、15ヶ月ではほとんど検出されなくなる。
3. アミロイド線維あたりの伝播性は投与後7ヶ月で最も強く、この時期の糞中にはWestern blotで低分子量のapoA-IIモノマーが観察される。
4. 伝播性が強く、生化学的特性が異なるAApoAIIアミロイド線維がアミロイドーシス